

FD研修報告

物質生命工学コース 小関泰之

2011年3月7日から3月18日にかけて、カリフォルニア州立大学フラトン校にてFD研修に参加させて頂きました。以下では、本研修で学んだこと、感じたことなどを記しておきたいと思います。

・FDワークショップ

FDに関するワークショップを、2週間にわたり計7コマ受講しました。まずBruce Rubinの“Reflective Teaching”において、(a) 教師とは何か、(b) 良い教師、悪い教師とは、(c) 授業前、授業中、授業後に教師が考えるべきことは何か、(d) なぜ私はここにいるのか、など、教師としてのあり方を徹底的に考えさせられました。Anne Houtmanからは、良い教え方というものは科学的に研究されており、是非参考にすべきだということ学びました。Kathi Bartle-Angusからは、より高いレベルの思考能力を学生に習得させるための戦略について学びました。Vikki Costaから、テクノロジーの活用法や、guided notes、rubric、self-assessment、quizなど、講義をより良くするための具体的な手法を学びました。いずれも、教育に関して体系立った勉強を怠ってきた私にとっては非常に有益なものでした。また、時間を区切って受講者に考えさせるなど、授業スタイルそれ自体が授業の見本になっていました。

・クラス見学

多くのクラスを見学し、上記の講師陣の実際の授業を見ることで、クラス運営のやりかたをクリアにイメージできました。日本と比較すると、(a) 学生と講師のやりとりが非常にinteractiveであること、(b) クイズやグループディスカッション等を多用していること、の2点が印象的でした。また、YouTubeのビデオクリップを活用したり、授業の真ん中に5分のブレイクを入れて、その時間以外は携帯を使用禁止にする等は、すぐにでも参考になると思いました。

・特別英語コース

Cindy BerteauによるFDプログラム向けの特別コースを受講しました。計6回にわたって、英語の発音だけでなく、attention grabber、credibility statement、transition、wrap up等の発表のテクニックや、small talkなど、英語文化に触れるための話題も取り入れられており、非常に得るものが大きかったと思います。毎回、授業の最後には近場のグルメを紹介するなど、サービス精神一杯の講義でした。

・学生実験

メンターのDr. Greg Childersと一緒に物理学生実験で学生と触れ合う機会が3回ありました。チームを組んで学生が自主的に取り組むところは日本と同じですが、以下のような違いを感じました。(a) 学生の人数15人程度と少ないため、相対的に実験室の広さに余裕があること。(b) 相当分厚い(20～70ページ)説明資料を良んでから実験に取り組むの

で、学生の知識に厚みがあること。実験内容に関しては、TeachSpinという会社の実験システムを用いて、ファラデー回転、NMR、レーザー分光、磁気モーメントなどのテーマが採用されていました。磁気や量子力学の基礎のイメージを学生にしっかり把握させようという意識を感じました。

・コロキウム

第2週の木曜日に、自分の研究内容をスタッフ及び学生に発表する機会を頂きました。この研修で学んだことをできるだけスライドに反映させました。概ね聴衆に狙いは伝わったようで、Students feedback formからはポジティブなコメントを得ることができました。

全体として感じたことは、FDワークショップ、クラス見学、特別英語コース等がバランス良く編成され、かつ無理のないスケジュールの中で、大変有益な経験をさせて頂いたことです。最後に、Melem Sharpe、Yuki Ueda氏を始めとする現地スタッフの皆様には大変お世話になりました。また、メンターのDr. Greg Childers、2週間ご一緒させて頂いた岡澤先生、永富先生、杉山先生、藤枝先生、事務手続きでお世話になりました松本様、本プログラムを取りまとめて頂いた金谷先生に厚く御礼申し上げます。



キャンパスにてCindy Berteauと。